

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

1. 建物概要

| | | |
|--------|-------------------------|--|
| 建物名称 | こばり有料老人ホーム | |
| 建設地 | 西区 | |
| 用途地域 | 第一種中高層住居専 | |
| 建物用途 | 病院, | |
| 竣工年 | 2011年2月 予定 | |
| 敷地面積 | 1,694.34 m ² | |
| 建築面積 | 824.34 m ² | |
| 延床面積 | 2,290.52 m ² | |
| 階数 | 地上3F | |
| 構造 | S造 | |
| 評価の段階 | 実施設計段階評価 | |
| 評価の実施日 | 2010年8月24日 | |

2. CASBEE新潟の評価結果

| | | |
|---|----|--|
| | B+ | $BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{51}{49} = 1.0$ |
| S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ | | |

3. 新潟市の重点項目の評価

| 重点項目 | 平均スコア | 評価 | 項目 | スコア |
|---------------------------------------|-------|----|----------------|-----|
| 1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために | 2.9 | | バリアフリー | 3.0 |
| | | | 維持管理 | 3.0 |
| | | | 更新性 | 2.8 |
| 2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために | 3.1 | | 耐震・免震 | 3.0 |
| | | | 信頼性 | 3.2 |
| 3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために | 3.0 | | 雨水排水負荷低減 | 3.0 |
| 4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために | 3.0 | | 建物の熱負荷抑制 | 3.0 |
| | | | 自然エネルギー利用 | 3.0 |
| 5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために | 4.0 | | 節水 | 4.0 |
| | | | リサイクル材の使用 | 5.0 |
| | | | 再利用可能性向上 | 3.0 |
| 6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために | 3.0 | | 生物環境の保全・創出 | 3.0 |
| | | | 敷地内温熱環境の向上 | 3.0 |
| 7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために | 3.0 | | まちなみ・景観への配慮 | 3.0 |
| | | | 地域性への配慮・快適性の向上 | 3.0 |

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

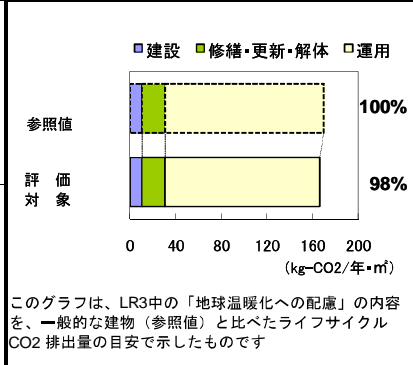
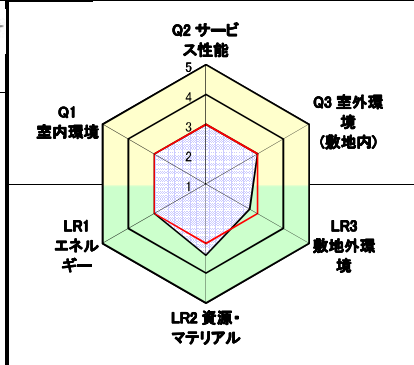
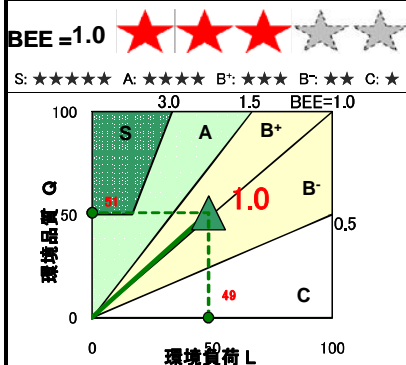
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。

- 1.アスファルト舗装を浸透性とし、緑地面積を可能な限り確保して、雨水を極力地中に戻す様に配慮しました。
- 2.リサイクル材を積極的に採用して、資源循環に寄与出来る様に配慮しました。
- 3.バリアフリー法の円滑化基準に則した計画として、バリアフリー化に配慮しました。
- 4.設備機器に高効率仕様を採用して、省エネルギー性に配慮しました。

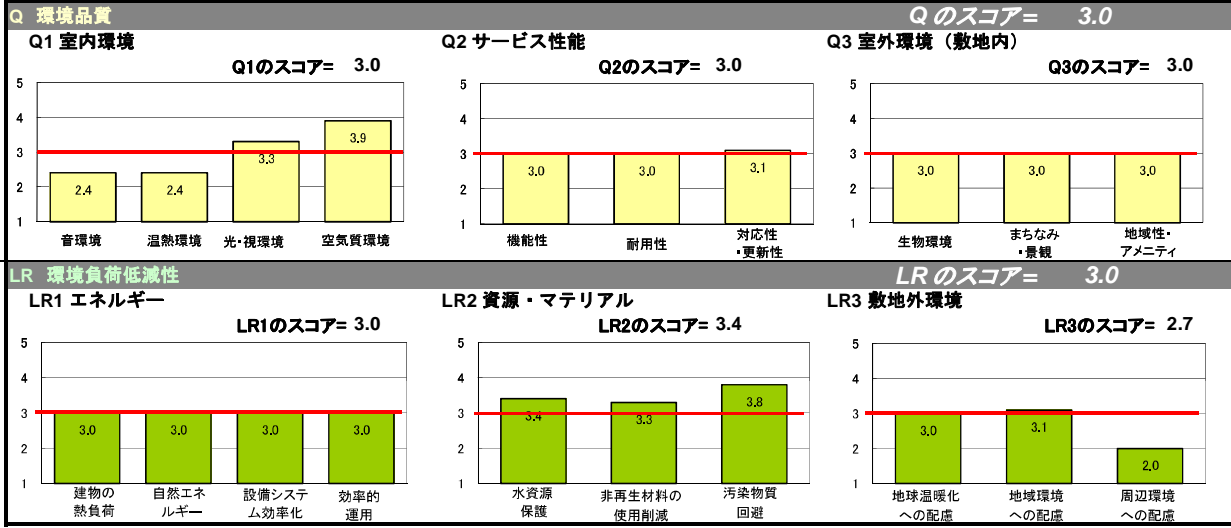
CASBEE[®]新潟 | 評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新潟 (簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) **2-2 大項目の評価(レーダーチャート)** **2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)**



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

| | |
|--|---|
| <p>総合 地域住民との交流を積極的に行う施設であることを目的に、1階部分に地域住民や施設を訪れた入居者の家族等が気軽に立ち寄れるホールを計画しました。また、各種の施設(建物、緑地等)が周辺環境に調和するように計画して、閑静な住宅街に悪影響を与えないように配慮しました。</p> | <p>その他 建設現場にリサイクルステーションを設けて、廃棄物の分別化・再資源化に取り組みます。</p> |
| <p>Q1 室内環境 居住部分の間仕切壁仕様を遮音仕様として、居住環境の向上に配慮しました。また、建物全体の空調をゾーン毎に制御が可能な計画として、室内環境の快適性に配慮しました。</p> | <p>Q2 サービス性能 バリアフリー法の円滑化基準に則した計画として、バリアフリー化に配慮しました。また、間仕切壁は将来的に変更が容易な乾式工法を採用して、対応性に配慮しました。</p> |
| <p>LR1 エネルギー 設備機器に高効率仕様を採用して、省エネルギー性に配慮しました。</p> | <p>LR2 資源・マテリアル グリーン調達品目として路盤材に再生骨材、エコマーク取得製品としてブロック、タイル、ビニル床材等を採用して、資源循環に寄与出来る様に配慮しました。また、指定科学物質を含有しない建材として、内装材の接着剤、塗料、床仕上げ材用ワックス等を採用して、有害物質含有製品の使用量の低減に配慮しました。</p> |
| <p>Q3 室外環境 (敷地内) 機能上必要な施設を除いた部分に、極力緑地を設けるようにして、外構面積の約11%を緑化する計画としました。また、新潟市景観条例に則して、建物の色彩計画及び設備室外機等の目隠し施設を計画して、周辺環境に調和するように配慮しました。</p> | <p>LR3 敷地外環境 アスファルト舗装を浸透性とし、緑地面積を可能な限り確保して、雨水を極力地中に戻す計画として、温熱環境悪化の改善に配慮しました。また、廃棄物の分別化、再資源化に取り組み、廃棄物処理負荷抑制に配慮しました。</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される